

することの多かった建築作業のスケジュールリングを、MACを利用してシステム化した。しかし、MACの作成そのものが個人の経験による部分が多く、担当者によって計画内容に大きな差があった。MACの作成をAIによってシステム化することによって、専門家のノウハウを有効に活用できるばかりでなく、短時間に多くの代替案を作成して評価することが可能となる。従来、計画段階で十分に検討しないまま施工していた工事も、納得ゆくまで検討を加えることができるようになるであろう。また、エキスパートシステムができる

と、ほとんどMACの経験のない技術者でも計画を行なえるようになるであろう。

そのような意味で、MAC作成のためのエキスパートシステムには大きな期待がよせられている。いまだ多くの問題は残されているが、種々の試行を繰り返し、1日も早く実用的なシステムを構築してゆきたい。

参考文献

- [1] 松本信二, 三根直人: 建築施工の作業計画における最適化. オペレーションズ・リサーチ Vol.28, No.5, (1983年5月), pp.219~224

上海システム・ダイナミクス国際会議報告

明治大学 島田 俊郎

1987年6月9日~12日、上海科学会議センターにおいて、システム・ダイナミクス(SD)学会87年度国際会議が開かれた。この会議の報告に入る前に1986年SD度国際会議について述べよう。86年度は、10月22日~24日、スペインセビリアで System Dynamics: On the Move というテーマで開かれた。

Forrester の Plenary Session に続き、10セッションに分れ、2セッションを並列に進めて行なわれた。セッション1~3は、SD理論研究、セッション4~10は、Models, Optimisation, Application, Expert Systems 等で総計68報告であった。日本からは島田俊郎(明治大)が参加、明大グループの Simulation Model of the Tokyo Metropolitan Region の報告を行なった。

87年度のSD国際会議は、上海機械学院の王其藩準教授を中心として組織され、上海機械学院および上海科学技術協会、その他公的機関の全面的援助のもとに、盛大に举行された。外国参加者約60名、中国参加者100名以上、開会式には、機械学院の関連学科の休講措置により、講堂一杯に学生が多数参加した。なお本会議と並行して、同じ場所で、中国SD学会が正式に発足した。

日本からの参加者は、*T内野 明(横浜商大)、*亀山三郎(中央大)、***岸 光男(大阪府大)、*小島崇弘(専修大)、**T島田俊郎(明治大)、**清水 明(千葉工大)、**堀内俊幸(千葉工大)、*T町田欣弥(朝日大)、山内 昭(阪南大)の9名で、*印の4名はアカウントィング・ダイナミクス(Accounting Dynamics Its concepts and model)を**の3名は千葉SDモデル(Design and Analysis of a Development Model for Chiba Prefecture)を、Tの3名は他2名と共同で歯科疾患モデル(A Simulation Model for Dental Diseases)を、***印の1名は他3名と共同でSDモデルのためのプロトタイプ・エキスパート・システム(A Prototype Expert System for System Dynamics Modelling)を発表した。

会議は初日の開会式、SD創案者のJay W. Forrester の招待講演に続いて、全14セッション(ポスターセッションは除く)65報告が行なわれた。

全体に中華人民共和国の論文が非常に多く、研究途中のものが多く、ほとんどがかなり大規模なモデルで、かつ、さまざまな新しい試みを行っており、その熱意と努力に感嘆する。